

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2024年度（令和6年度）事業報告

【概要】

令和6年度、陸上競技界はパリ五輪での日本人選手の活躍が大きな話題となった。学生選手の活躍もあったが、世界のレベルが高くなる中では、育成期間としての学生陸上の重要性を感じる年でもあった。

各事業については、年度当初に立てた事業計画に沿って遂行し、6月に日本学生陸上競技個人選手権大会を開催、前年はWUG選考競技会として4月に開催したが、本年は6月に戻しての開催となった。

天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会（以下日本インカレ）は、昨年の熊谷スポーツ文化公園陸上競技場から川崎市のUvanceとどろきスタジアムby Fujitsuでの開催となった。9月19日からの実施となったため、暑熱対策面では少し緩和できたことなど比較的順調な運営ができた。記録もU20日本新記録、日本学生新記録、大会新記録など、好記録が続出する大会であった。等々力の競技場は今後サッカー専用スタジアムへ改修されるため、全国大会規模の陸上競技大会としては最後の競技会となった。

駅伝シーズンに入り、昨今の気温上昇傾向の環境においては、選手の安全管理が心配されるようになり、給水に関してそれぞれの大会で検討がなされた。緊急事態（走行困難な選手）の対応を明確にした運用を昨年の大会から導入したが、特に大きなトラブルもなく無事終了することができた。

2024年度は、オランダ/ナイメーヘン15kmロードレースへのフル代表派遣が5年ぶりに実現したことや日本学生ハーフマラソン選手権が立川市から丸亀市に移り、学生新記録など好成績が続出するなど、特筆すべき点も挙げられる。また、ワールドユニバーシティゲームズのない年であったこと、日本インカレが首都圏で開催された年であったことなど、事業を遂行する環境面では大きなストレスがかかることもなく、多くの関係者のご理解、ご協力をいただきながら順調に事業を終えることができた。

{公1-競技会}

今年度はWUGの開催がないため日本学生陸上競技個人選手権大会は通常開催の6月となった。当初、台湾の学生選抜チームが参加する予定であったが、急遽来日が中止となった。64回を迎えた実業団・学生対抗陸上競技大会は、7月20日に開催され、パリ五輪に出場する選手も迎え、中でも100mHの福部選手が日本新記録をマークするなど大変盛り上がった大会となった。

日本インカレは、93回大会となり、6年ぶりに川崎市の等々力陸上競技場で開催した。先にも述べたが、この競技場は今後サッカー専用スタジアムへ改修されるため、川崎市陸上競技協会の強い希望により、最後にふさわしい全国規模の陸上競技会として誘致していただいた。ロケーションが良いことも幸いし、入場者数も増え、大会も大変盛り上がる中、好記録も続出した。天皇賜盃は順天堂大学が、秩父宮妃杯は日本体育大学が獲得しそれぞれ4連覇を成し遂げた。

10月に入り、駅伝大会の幕開けとなる第36回出雲駅伝は、昨年に引き続きIVYリーグ選抜チームも招聘し、選抜された21チームで開催された。初出場の岡山大学をはじめ国立大学が4校出場するなど、関東勢が優勝を競う以外のところで話題性のある大会でもあった。結果は國學院大學が5年ぶり2度目の優勝に輝いた。

10月27日開催の第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、昨年コース変更を行い2回目の開催となった。また、選手走行において、安全を脅かす事例が昨年あったことから、競技継続の判断など、安全管理の対策を十分加味した運営を行った。結果事故もなく無事終了したが、引き続き、安全対策において油断を怠らないよう安全第一の運営を確認した。結果は立命館大学が名城大学の8連覇を阻止し、9大会ぶりの11回目の優勝を果たした。

11月3日開催の第56回全日本大学駅伝対校選手権大会は、前日の豪雨による交通の混乱もあったが、当日は晴天にも恵まれ、全27チームが伊勢路を駆け抜けた。結果は國學院大學が初優勝。出雲駅伝に続き学生駅伝2冠を達成した。

学生駅伝全国大会の最後となる2024全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）は、12月30日に開催され、地元の理解や多くの関係者の努力によって盛況のうち無事終了することができた。結果は立命館大学が名城大学の7連覇を阻止し、7区間のうち4区間で区間賞を獲得、さらに大会新記録を樹立し、7年ぶり6回目の優勝を果たした。

2025年に入り、WUG開催年であることからロード種目の日本代表選手選考競技会として準備を進めた。2月2日に開催した第28回日本学生ハーフマラソン選手権は、昨年の立川市から丸亀市に移り、約300名のエントリーにより実施された。好記録を出しやすい大会として注目されている大会だが、その期待通り学生新記録の誕生、また自己新記録の続出する大会となった。WUGの選考においては、予定通り3名の日本代表選手を内定した。続く3月16日、松江レディースハーフマラソンの併催として第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会を実施し、男子同様3名の日本代表選手を内定した。また、同日に開催した全日本能美競歩/第19回日本学生20km競歩選手権も予定通り開催し、男子3名の日本代表選手を内定した。

{公2-育成}

長らく派遣を中止していたオランダ/ナイメーヘン 15kmロードレースにおいて2019年以来5年ぶりにフル代表の派遣を実施し、アフリカのプロランナーに交じって好成績を上げることができた。

ドーピングコントロールテストに関しては、主催の陸上競技3大会と全日本大学女子駅伝対校選手権大会において実施した。近年、残念なことに留学生のドーピング違反が複数発覚し、JADAや日本陸連より指導の対象となった。この事案を受け、アウトリーチプログラムをさらに充実させるべく医事委員会において実学対抗陸上競技大会を除く2大会における企画や富士山女子駅伝の開会式後に選手、指導者を対象に講習会を行うなどの活動を実施した。

審判員育成については、B級審判の養成、資格取得については各地区学連の対応において実施した。

指導者会議については、本年度70回を数え、対面とオンラインを併用して実施した。テーマは「日本学連における今後の指導者施策」とし、内容は、日本陸連において、生徒児童が加入するクラブチームを立ち上げる際に、コーチ資格を持つ者の登録が義務化されたことなどを受け、各大学の指導者においてコーチ資格を持たない者が多くいると予想されることや昨今ではコーチ・指導者のモラル欠如に伴うトラブルも報告されていることから、今年度は、コーチ・指導者に焦点を当てて、大学指導者の在り方を検討する会議とした。

他の育成事業として、栄章贈与式（新記録章）、クロカン日本選手権（共催/福岡）、東京マラソンへの学生エリート、準エリート選手推薦を予定通り実施した。

{公3-調査研究}

調査研究事業においては、本年もtoto助成金を受領し、年3回の陸上競技研究（135～137号）を発行した。

共催事業として、第23回日本陸上競技学会が予定通り実施された。

テーマ：「陸上競技学における実践研究の促進」期 日：2025年 2月22日（土）、23日（日）、
会 場： [仙台大学](#)

{法人管理部門}

令和6年6月8日の定時社員総会は、令和5年度の事業報告/収支決算および令和6年度、7年度の役員を承認する議題等で開催した。

令和6年度開催の理事会は、まず5月18日（事業報告が主な議題）、6月8日（役員改選）、7月29日（臨時理事会/2025主催競技会に関して）、8月28日（臨時理事会/競技会の不適正実施における処分）、9月19日（WUG選考要項等）、12月14日（令和7年度事業日程等）、令和7年1月16日（臨時理事会/WUG選考要項再検討）、3月8日（令和7年度事業計画等）以上計8回開催した。

恒例の第50回幹部役員研修会は1泊2日の日程で実施した。日本学連の事業遂行において、重要な役割を担う新学生幹部役員に対する研修となった。

{普通会员の登録数}

令和6年度、普通会员登録者数は19,901となった。令和5年度は19,500名であったことから、401名の増員となった。令和6年度予算では20,000名としていたのでわずかに届かなかった。コロナ以前にはまだ戻っていない状況であるが、少しずつ回復している結果となった。

(1) 公1<競技会>

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2024日本学生陸上競技個人選手権大会	2024年 6月14日(金) ～16日(日)	レモンスタジアム平塚 ＊ハンマー投げ/東海大学湘南校舎競技場	男子18 女子18	男:86校/477名 女:83校/519名	U20日本新(1) 大会新(6) スポーツ振興基金助成金事業
2	(2024オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第64回実業団・学生対抗陸上競技大会 (日本グランプリシリーズ/G2)	2024年 7月20日(土)	平塚市 レモンスタジアム平塚	男子9 女子9	54名 54名 (オープン参加は含まず)	実業団213.5点男子108点女子105.5点 学生167.5点 男子84点女子83.5点 総合優勝チーム: 秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム: 文部科学大臣杯 女子優勝チーム: 厚生労働大臣杯

3	天皇賜盃 第93回日本学生陸上競技対校選手権大会	2024年 9月19日(木) ～22日(日)	神奈川県/Uvanceとどろ きスタジアムby Fujitsu	男子22 女子22	127校…1061名 108校…873名	男子優勝校 順天堂大学(82点) 女子優勝校 日本体育大学(85.66点) U20日本新(2) 日本学生新(2)、 大会新(7)
4	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2024年 10月14日(月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内…20チーム海外…1チーム(IVY)	優勝:國學院2時間09分24秒 2位:駒澤大 2時間10分04秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、 文部科学大臣賞を授与
5	第42回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2024年 10月27日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+1チーム(東北選抜)	優勝:立命館大2時間03分03秒 (9大会ぶり11回目) 2位 大東大 2時間04分06秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第56回全日本大学駅伝対校選手権大会	2024年 11月3日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間)		国内・25校+2チーム(東海選抜/全日本大学選抜)	優勝 國學院大 5時間9分56秒 (4年連続16回目の優勝) 2位 駒澤大 5時間10分24秒 ※優勝チーム:秩父宮賜杯を授与
7	2024全日本大学女子選抜駅伝競走	2024年 12月30日(月)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22単独チーム+全日本大学選抜+静岡県選抜)計24チーム	優勝 立命館大 2時間21分09秒 2位 大東文化大 2時間23分47秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
8	第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会	2025年 2月2日(日)	丸亀市		エントリー:311名 完走:206名	優勝:工藤慎作(早稲田大)1.00.06 2位:馬場賢人(立教大)1.00.26 3位:上原琉翔(國學院大)1.02.30
9	第19回日本学生20km競歩選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会	2025年 3月16日(日)	能美市		男/エントリー:53名 女/エントリー:32名	男子優勝 原 圭佑(京都大) 1時間19分40秒 女子優勝 柳井綾音(立命館大) 1時間30分25秒
10	第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール)日本代表選手選考 競技会	2025年 3月16日(日)	松江市		エントリー:60名 完走:38名	優勝:土屋舞琴(立命館大)1:12:04 2位:野田真理耶(大東大)1:12:20 3位:高橋 葵(城西大)1:12:28
11	2024年日本学生記録年鑑の発行	2025年 3月29日発行		1000部発行 主催競技会の記録、2024年50傑、歴代10傑他		

(2) 公2＜育成＞

No.	競技会等	期日	場所	備考	
1	秩父宮賜杯 第77回西日本学生陸上競技対校選手権大会	2024年 7月5日(金)～ 7日(日)	岐阜メモリアルセンター長良川競 技場	日本学連共催。	
2	第46回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2024年 8月12日(木) ～14日(土)	石川県西部緑地公園陸上競技 場	日本学連共催。	
3	オランダ/ナイメーヘン15kmロードレース	2024年11月17日(日)	オランダ/ナイメーヘン	選手8名(男子4名、女子4名)スタッフ4名計12名 男子:青木瑠郁(國學院大)4位 女子:小川 陽香5位	
4	第108回日本陸上競技選手権大会クロスカン トリー競走(日本学連共催)	2025年 2月22日(土)	福岡市/海の中道海浜公 園男子12km、女子8km	男子最高:伊藤 蒼唯(駒沢大)学生1位(連合杯獲得) ※ 29分16秒(日本選手権4位) 女子最高:白川朝陽(筑波大大)学生1位(連合杯獲得) ※ 27分00秒(日本選手権10位)	
5	第5回全国大学対校男女混合駅伝競走大会	2025年 2月16日(土)	ヤンマースタジアム長居 /長居公園内コース	日本学連共催。21チーム参加①日体大②大東文化大学 ③順天堂大学	
6	RUN as ONE 東京マラソン 2025準エリート(学生)	2025年 3月2日(日)	東京	東京マラソン財団へ推薦、準エリート及びエリート	
7	日本学連栄章贈与式/諸記録章 (日本学生新記録)	2025年 3月8日(土)	東京/新宿(TKP)	【日本学生新記録章】 ①平林 清澄(國學院大)マラソン、 ②リチャード/エティエリ(東京国際大)ハーフマラソン ③4×100mR(早稲田大)大竹 春樹・千田 杜真寿 関口 裕太・井上 直紀 (女子) ①本田 怜(順天堂大)100mH ②柳井綾音(立命館大)10000mW ③村上来花(九州共立大)ハンマー投げ ④サラ ワンジル(大東文化大学)5000m	
8	第70回指導者会議	2025年 3月8日(土)	TKP新宿/ ZOOM 併催	テーマは「日本学連における今後の指導者施策」	
9	大阪・関西万博開催記念 CAN EXPO EKIDEN2025(日本学連:協力)	2025年 3月16日(日)	大阪市/万博記念公園～ 夢洲	実業団6チーム 学生8チーム オープン2チーム	優勝:トヨタ自動車 2位:富士通 3位:國學院大學
10	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催	
11	ドーピング・コントロール・テスト	4回	各地	検査実施大会(日本学生個人、実業団・学生対抗、日本IC、 全日本大学女子駅伝)	
12	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識2025発行	2025年1月1日発行	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集	

(3) 公 3 <調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催（第23回）	2025年 2月22日（土）～23日（日）	仙台大学	日本学連共催 テーマ：陸上競技学における実践研究の促進
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年3回/135号～137号		(ISSN 0919-9918) 日本学連調査研究委員会 2024/6/30、10/31 2025/2/28発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘 要
1	理事会の開催	8回	第64回（5月18日） 第65回（6月8日） 第66回（7月29日） 第67回（8月28日） 第68回（9月19日） 第69回（12月14日） 第70回（1月16日） 第71回（3月8日）
2	定時社員総会の開催	1回	第16回定時社員総会（6月8日）/R5年度事業報告、R6, 7年度役員改選
3	企画委員会の開催	4回	定時理事会の設営（議題の検討）、執行業務の企画、立案
4	会員の入会受付	2024年度	正会員 135名 普通会員（学生） 19,901名 賛助会員の募集活動
5	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2024年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請 WRk競技会開催受付/申請
6	会報の刊行	3回	各回 1,000部（名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布） 5月、10月、1月
7	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
8	2023学生役員会議	2024年 12月14日（土）	1回開催（新宿） 参加対象：各地区学連幹部学生役員
9	第50回学生幹部役員研修会	2025年 3月7日（金）～ 8日（土）	集合研修 参加対象：令和7年度各地区学連三役
10	マーケティング部会	随時	事業活性化に向けた事業収入の確保。協賛企業への戦略、立案の検討
11	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載（各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆）